

令和4年度
事業報告書



日本赤十字社

Japanese Red Cross Society

埼玉県支部

はじめに

埼玉県支部は、令和4年度に創立135周年、青少年赤十字創設100周年を迎えました。このように長い歴史を刻むことができましたのは、赤十字会員やボランティア、地区・分区や学校関係者をはじめ多くの皆様からの温かいご支援とご協力のおかげにほかなりません。あらためて、厚くお礼申し上げます。

引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた一年でしたが、感染防止対策を徹底し、そして何よりも関係する皆様のご尽力により、着実に赤十字事業を展開することができました。中でも青少年赤十字事業では、地域社会とのつながりをより体感できる活動や牽引役となる指導者の養成に力を入れるとともに、児童・生徒を顕彰する仕組みを新たに設けるなど、次の100年に向けた土台づくりを進めたところです。

また、県内の赤十字施設においても、お寄せいただいている期待と信頼に応えるために力を尽くしてまいりました。さいたま・小川・深谷の各赤十字病院では、コロナ感染者の積極的な受入れをはじめ地域の基幹病院として質の高い医療を提供し、特別養護老人ホームでは、利用者に対するサービスの充実に努めました。血液事業では、献血者減少に伴う供給数不足が懸念される中、安全な血液製剤の安定的な確保に向けて啓発活動を強化しました。

これからも時代の変化に対応しながら、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ため、管内の赤十字施設がワンチームになって全力で取り組んでまいります。

今後も赤十字に対し、より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

目 次

事業報告

災害救護活動	1
救急法等の講習	4
赤十字ボランティア	6
青少年赤十字	8
国際活動	10
医療事業	11
社会福祉事業	12
血液事業	13
広報活動	14
看護師の養成	15

資 料

令和4年度 歳入歳出決算	16
埼玉県支部について	18
県内赤十字施設一覧	20

災害救護活動

令和4年度 歳出額 99,449千円

災害から一人でも多くのいのちを救うために

災害時に備えて常備医療救護班（10 個班・7～9 人/1 個班）の要員、血液供給要員及び災害対策本部要員を救護員として 187 人登録し、救護訓練や研修を実施して研鑽に努めました。

その他、救護装備等の充足整備、被災者への救援物資の配布、弔慰金の支給、義援金の受付など、それぞれの災害の規模や状況に即して幅広い対応を行いました。

①災害救護活動

令和4年度は、救護班等の派遣はありませんでした。

②訓練・研修会等

いつどこで起こるか分からない災害に備え、関係機関とも連携して迅速な救護活動ができるよう様々な被災状況を想定した訓練や、救護員の資質の向上を図るための研修会等を行いました。

<訓練>

名称	日程	開催場所等	参加人数等
第43回九都県市合同防災訓練 (埼玉県会場)	8月28日	北本総合運動公園 北本市体育センター	小川日赤救護班 1班 支部職員 4人
第43回九都県市合同防災訓練 (さいたま市会場)	9月4日	大宮消防署 合併記念見沼公園	さいたま日赤救護班 1班 支部職員 4人
関越自動車道高坂SA(上り線) 防災拠点合同訓練	10月12日	高坂SA	支部職員 3人
国民保護訓練	11月10日	富士見市	さいたま日赤 2人 支部職員 3人
日本赤十字社埼玉県支部 災害救護訓練	11月12日	小川町	管内施設職員 62人 支部職員 8人
日本赤十字社本社・第2ブロック 支部総合訓練	11月19日 ～20日	秦野市	小川日赤救護班 1班 深谷日赤 1人 支部職員 4人
日本赤十字社第2ブロック支部 先遣要員訓練	1月16日 1月19日 ～20日	(学科)オンライン (実技)水戸市	支部職員 2人
関東管区広域緊急援助隊合同訓練	2月2日	埼玉スタジアム 2002	さいたま日赤救護班 1班 支部職員 4人
支部災害対策本部訓練	2月6日	埼玉県支部	支部職員 22人
帰宅困難者対策訓練	2月8日	川口市	支部職員 1人
埼玉版 FEMA 図上訓練	2月15日	オンライン	支部職員 3人
日本赤十字社第2ブロック被災地 支部災害対策本部運営・支援訓練	3月3日	埼玉県支部	管内施設職員 3人 他支部職員 18人 支部職員 24人



日本赤十字社第2ブロック被災地支部
災害対策本部運営・支援訓練



日本赤十字社埼玉県支部災害救護訓練

<研修会>

名称	日程	開催場所等	参加人数等
日本赤十字社埼玉県支部 救護班要員研修会	6月22日 ～24日	ヘリテイジ美の山 (皆野町)	管内施設職員 68人 支部職員 8人
災害救護ロジスティック要員研修会	5月31日 7月22日	埼玉県支部	管内施設職員・支部職員 延べ 18人
日赤災害医療コーディネーター研修会	9月10日 ～11日 1月21日 ～22日	本社	さいたま日赤 1人 スタッフ延べ 5人 (管内施設・支部職員)
全国赤十字救護班研修会	10月22日 ～23日 2月11日 ～12日	本社 日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第二病院	スタッフ延べ 4人 (管内施設・支部職員)
こころのケア指導者養成研修会	11月16日 ～17日	本社	小川日赤 1人
救護員としての赤十字看護師研修会	2月 3日 オンデマンド 3月14日	さいたま赤十字病院 小川赤十字病院 深谷赤十字病院	管内施設職員 63人 支部職員 3人
こころのケア研修会	2月 9日 3月13日 3月17日	深谷赤十字病院 小川赤十字病院 さいたま赤十字病院	管内施設職員 34人 支部職員 2人
日赤看護大さいたま看護学部災害看護活動論	2月21日 ～22日	埼玉県支部 日本赤十字看護大学 さいたま看護学部	支部職員 4人



日本赤十字社埼玉県支部救護班要員研修会



災害救護ロジスティック要員研修会

③救護装備・資材の整備等

- ◇地域における災害救護体制の整備を目的に策定した「日本赤十字社埼玉県支部地区・分区救護装備・機器配備要綱（第7次3か年計画：令和4年度～6年度）」に基づき、令和4年度は地区・分区に24品目（合計584品）の資材を配備。
- ◇県内での火災等小規模災害の被災者に向けた救援物資（布団セット314組、毛布277枚、緊急セット163セット）を地区・分区に配分。また、災害弔慰金として690,000円（31件）を支給。
- ◇ウクライナから県内に避難された方々に対して、地区・分区を通じて救援物資（布団セット42組、毛布32枚、緊急セット20セット、感染予防セット9セット）を提供。
- ◇トルコ・シリア地震により県内に避難された方々に対して、地区・分区を通じて救援物資（布団セット3組、毛布3枚、緊急セット3セット）を提供。
- ◇8地区・分区に対し赤十字救援車8台を配備。



スポットクーラー 大型扇風機 ポータブル蓄電池・ソーラーパネルセット



救援車両（軽貨物バン）

④その他の救護活動

各行事における臨時救護要員として、職員とボランティアを派遣しました。

名称	日程	場所	参加人数等
大宮氷川神社 雑踏救護	12月31日 ～1月3日	大宮氷川神社 (さいたま市大宮区)	支部職員 8人 管内施設職員(看護師) 6人 ボランティア 20人
臨時救護 (式典、スポーツ大会等)	年間	県内各地	埼玉県ナース赤十字奉仕団 延べ派遣日数 92日 延べ派遣者数 114人 延べ患者数 140人

⑤義援金の受付

国内の災害に対する義援金を受け付け、被災地に送金しました。

義援金名	件数	金額
平成30年7月豪雨災害義援金	63件	354,288円
令和2年7月豪雨災害義援金	131件	900,794円
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	94件	616,128円
令和4年7月大雨災害義援金	82件	391,600円
令和4年8月3日からの大雨災害義援金	230件	4,673,173円
令和4年台風第15号災害義援金	106件	767,915円
計	706件	7,703,898円

救急法等の講習

令和4年度 歳出額 38,485千円

とっさの手当ができる人を一人でも増やしていくために

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況から養成講習を見合わせた時期もありましたが、感染防止対策を徹底しながら集合型の講習やオンラインによる講習を実施し、一人でも多くの人に技術と知識を習得いただけるよう取り組みました。

①救急法

一次救命処置（心肺蘇生とAEDの使い方）やけがの手当について、企業や団体とも連携しながら講習を実施しました。

講習会名	回数	受講者数	内容
基礎講習	45回	929人	傷病者の観察の仕方、一次救命処置等救急法の基礎
救急員養成講習	16回	360人	急病の手当、けがの手当、搬送及び救護
短期講習	157回	3,788人	基礎講習及び救急員養成講習の内容の一部



救急法講習会



若手神職を対象とした救急法講習会（寶登山神社）

②水上安全法

水の事故から命を守るための講習を実施しました。救助員養成講習はマスク着用などの感染防止対策がとれないため中止し、着衣泳を中心とした短期講習を行いました。

講習会名	回数	受講者数	内容
救助員Ⅰ養成講習	開催なし	—	水の事故防止、泳ぎの基本と自己保全、事故者の救助及び応急手当
救助員Ⅱ養成講習	開催なし	—	海、河川及び湖沼での事故防止、泳ぎの基本と自己保全、事故者の救助及び応急手当
短期講習	25回	936人	救助員Ⅰ養成講習及び救助員Ⅱ養成講習の内容の一部

③健康生活支援講習

家庭における高齢者の健康管理、介護予防、介護の仕方等を学ぶ講習を実施しました。

講習会名	回数	受講者数	内容
支援員養成講習	1回	8人	高齢期における健康の維持と増進、家庭内の看護、自立に向けての介護及び地域の高齢者支援
災害時高齢者生活支援講習	11回	257人	災害が高齢者に及ぼす影響や避難所生活で気を付けたい症状や支援技術
短期講習	32回	321人	支援員養成講習の内容の一部

④ 幼児安全法

子どもの事故予防や応急手当、看病の仕方等を学ぶ講習を実施しました。

講習会名	回数	受講者数	内容
支援員養成講習	2回	43人	子どもに起こりやすい事故の予防と手当及び病気への対応
短期講習	54回	854人	支援員養成講習の内容の一部

⑤ 防災教育事業

防災意識の啓発と災害から身を守るための講習を実施しました。

名称	対象者	回数	参加人数
赤十字防災セミナー	奉仕団員等	18回	387人
	一般市民・町民、その他	14回	392人
指導者養成研修会	奉仕団員・救護ボランティア・支部職員	2回	23人
防災教育プログラム	児童生徒・教員等	10回	737人

⑥ 講習普及を担うボランティアの育成

講習事業の普及推進のため、各奉仕団が主体となり団員を対象に研修を行いました。

名称	回数	参加人数
埼玉県子育て介護赤十字奉仕団 研修会・勉強会	6回	69人
埼玉安全赤十字奉仕団 研修会・勉強会	9回	120人
日赤埼玉水上安全奉仕団 研修会	1回	28人

⑦ 講習指導員の養成

講習普及体制を充実・強化するため、指導員の養成と研修によるスキルアップを図りました。

〈指導員養成講習〉

名称	日程	養成人数
赤十字救急法指導員養成講習	11月26日～27日、 12月2日～4日（5日間）	18人

〈指導員研修会〉

名称	開催方法	参加人数
救急法指導員研修会	集合型	113人
水上安全法指導員研修会	集合型	22人
健康生活支援講習指導員研修会	集合型	40人
幼児安全法指導員研修会	集合型	54人

〈救急法等指導員在籍状況〉

	赤十字職員	ボランティア	計
救急法指導員	96人	127人	223人
水上安全法指導員	3人	51人	54人
雪上安全法指導員	1人	4人	5人
健康生活支援講習指導員	32人	33人	65人
幼児安全法指導員	35人	55人	90人



赤十字救急法指導員養成講習会

赤十字ボランティア

令和4年度 歳出額 23,425千円

地域や赤十字を支える大きな力

令和4年度は、青少年赤十字加盟校と連携、協働した活動や地域包括ケアに関する活動など、県内各地で地域共生を目指した活動を推進しました。

また、ボランティア活動に必要な知識や技術のスキルアップや、活動の推進役・牽引役となるリーダーの養成を図るため、オンラインも活用しながら各種研修を実施しました。

① 奉仕団数及び団員数

地区別	区分	管内総数	結成地域数	結成率	団数	団員数
地域奉仕団（市・区）※1		49	28	57%	28	3,910人
	（町・村）	23	21	91%	21	1,451人
	小計	72	49	68%	49	5,361人
青年奉仕団※2		-	-	-	3	140人
特殊奉仕団※3		-	-	-	9	956人
救護ボランティア		-	-	-	-	58人
合計		72	49	68%	61	6,515人

※1 さいたま市を除く市及びさいたま市内10区の合計

※2 埼玉県青少年赤十字卒業生、共栄大学学生、日本赤十字看護大学さいたま看護学生

※3 マジック、安全、さいたま赤十字病院ボランティア、ナース、支部援助、水上安全、青少年赤十字賛助、子育て介護、埼玉工業大学（大学職員・学生）

② 主な活動内容

◇地域奉仕団

赤十字会員の募集
国内義援金・海外救援金の募集
防災学習
炊き出し等災害時対応訓練
献血推進
社会福祉施設における活動 等

◇青年奉仕団

青少年赤十字高校生対象行事の運営補助
手話学習 等

◇特殊奉仕団

救急法等の普及・指導
青少年赤十字の普及・指導
その他赤十字事業への協力 等

◇救護ボランティア

支部所有の救護装備・資器材の技術的点検、整備 等



赤十字講習指導員の指導の下、避難所生活を想定したリラクゼーションを体験する皆野町赤十字奉仕団と町内の小学生



中学校で赤十字防災セミナー（災害図上訓練（DIG））の指導をサポートする松伏町赤十字奉仕団



町や社協、地元大学と連携し、町内のひとり暮らしの方との交流会を開催した吉見町赤十字奉仕団

③赤十字ボランティアを対象とした主な研修

名称	日程	開催場所等	参加人数
ボランティア基礎研修会	第1回 6月23日	坂戸市文化会館	15人
	第2回 6月29日	埼玉県支部	24人
	第3回 7月6日	熊谷市妻沼公民館	17人
赤十字奉仕団委員長研修会	10月21日	埼玉県支部	32人
ボランティア・リーダーシップ研修会	第1回 3月8日	埼玉県支部	26人
	第2回 3月9日	埼玉県支部	13人
赤十字ボランティア・リーダー研修会 （本社主催）	（青年奉仕団対象） 8月27日～28日	オンライン	代表 1人
	（地域・特殊奉仕団対象） 1月28日～30日	本社	代表 1人
防災ボランティア・リーダー養成研修会 （本社主催）	6月25日～26日	オンライン	代表 1人



赤十字奉仕団委員長研修会



ボランティア・リーダーシップ研修会

青少年赤十字

令和4年度 歳出額 31,165円

豊かな心をもった青少年を育てるために

未来を担う青少年が、赤十字精神に基づき「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の3つの実践目標を掲げ、活動を通して自ら「気づき、考え、実行」できるよう、学びの機会を提供しています。

学校教育や幼児教育の中で教員・保育士などが指導者となり活動を展開しました。

①青少年赤十字加盟校の状況

新たに24校が加盟し、626の学校（園）で約20万人のメンバーが活動を行いました。

	幼稚園・保育園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
学校数	127園	271校	159校	66校	3校	626校(園)
メンバー数	16,205人	119,053人	63,176人	14,408人	447人	213,289人

②主な活動内容

◇青少年赤十字創設100周年記念事業の実施

- 青少年赤十字作品コンクールの実施
- 記念パンフレットの作成、配布
- 記念動画の制作、配信
- 記念大会の開催（11月18日・さいたま市文化センター）
 - ・青少年赤十字作品コンクール入賞作品の展示及び入賞者の表彰
 - ・記念動画の上映
 - ・記念講演「笑顔のもとに笑顔が集まる」
講師：林家たい平氏
 - ・青少年赤十字加盟校合唱団による演奏
春日部市立豊春中学校



青少年赤十字作品コンクール入賞者の表彰

◇青少年赤十字メンバー（児童・生徒）の育成

- 小・中学生1日防災学習プログラムの開催
- リーダー養成研修の開催
- 高校生協議会活動への支援等（学習会の開催）
- 姉妹赤十字社ユースメンバーとの交流
- 積極的に活動した児童・生徒の表彰 等



北埼玉地区リーダーシップ・トレーニング・センター（オンライン）

◇青少年赤十字指導者（教員）の育成

- 指導者研修会や研究協議会（文部科学省視学官による講演）の開催、指導情報誌や指導教材の提供 等

◇加盟校（園）の活動強化

- 研究奨励費の交付と研究集録の作成・配布、防災教育や人権教育などの普及促進、出前授業の実施 等

◇加盟促進に向けた取組

- 校長会、県教育委員会及び市町村教育委員会への加盟促進依頼
- 青少年赤十字賛助奉仕団員を中心とした未加盟校への学校訪問、教材提供 等



リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成研修会

<リーダー養成研修>

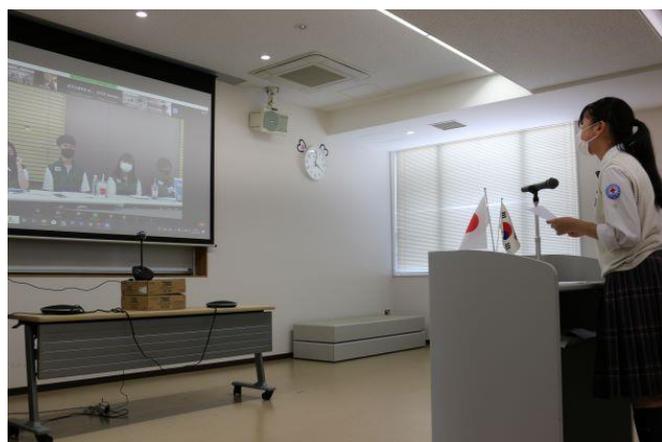
名 称	日 程	開催場所等	参加人数
入間地区リーダーシップ・ トレーニング・センター	8月4日	埼玉県立小川げんきプラザ	児童・生徒 25人 指導者等 15人
北埼玉地区リーダーシップ・ トレーニング・センター	8月24日	オンライン	児童・生徒 76人 指導者等 23人
小・中学生 1日防災学習プログラム	2月4日	首都圏外郭放水路 埼玉県防災学習センター	児童・生徒 34人 指導者等 13人
令和4年度青少年赤十字 スタディー・プログラム	3月21日	オンライン	生徒 2人
	3月25日	日本赤十字社本社	指導者等 2人

<青少年赤十字指導者養成研修>

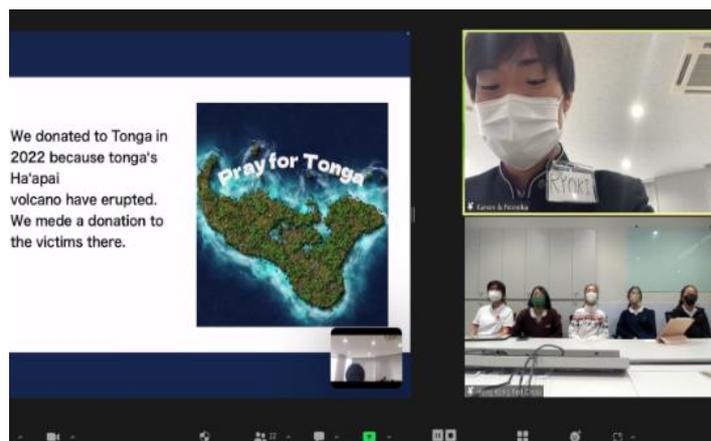
名 称	日 程	開催場所等	参加人数
青少年赤十字担当指導者研修会	4月20日	オンライン	指導者 14人
青少年赤十字リーダーシップ・トレー ニング・センター指導者養成研修会	6月25日 ~26日	埼玉県立加須げんきプラザ	指導者 15人
青少年赤十字指導者研修会	8月22日	埼玉県支部	指導者 22人
こども赤十字指導者研修会	8月23日	埼玉県支部	指導者 14人

<姉妹赤十字社ユースメンバーとの交流>

名 称	日 程	開催場所等	参加人数
大韓赤十字社京畿道支社 RCY / 日 本赤十字社埼玉県支部 JRC オンライン 異文化交流プログラム 2022	8月10日	オンライン	高校生 22人 指導者等 11人
香港紅十字社ユースボランティアとの オンライン国際交流	3月18日	オンライン	中・高校生 21人 指導者等 10人



大韓赤十字社京畿道支社 RCY / 日本赤十字社埼玉県支部 JRC オンライン異文化交流プログラム 2022



香港紅十字社ユースボランティアとのオンライン国際交流

国際活動

令和4年度 歳出額 46,585千円

世界中で苦しむ人々のために

192 の国と地域に広がる赤十字の世界的ネットワークを活かし、紛争犠牲者や災害被災者の緊急救援、開発途上国への開発協力を行いました。また、オンラインも活用しながら、海外赤十字社との交流などを通じて国際理解・親善・協力関係を深めました。

① 国際救援・開発協力事業

- ◇北関東四県支部（埼玉・茨城・栃木・群馬）共同支援事業
 - ・バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業への資金支援
 - ・インドネシア・コミュニティ防災強化事業への資金支援
(四県で各 200 万円)
- ◇NHK海外たすけあいキャンペーン [12月1日～25日]
(寄付 482 件・937,843 円)



バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業
オンライン研修会

② 国際交流

- ◇北関東四県支部海外赤十字・赤新月社支援事業オンライン研修会
(テーマ：バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業)
- ◇ボランティアプレゼント交換（大韓赤十字社京畿道支社）
- ◇香港・韓国・マレーシアのユースメンバーとの交流（オンライン）
- ◇高校生協議会による日本語学校留学生との交流会



日本語学校留学生との交流会

③ 海外救援金の受付

国外の大規模災害や紛争等に対して、被災国及びその近隣国での救援活動や復興支援のための海外救援金を受け付けました。

救援金名	件数	金額
無指定海外救援金	2件	12,000円
中東人道危機救援金	10件	105,159円
バングラデシュ南部避難民救援金	38件	106,674円
アフガニスタン人道危機救援金	54件	182,435円
ウクライナ人道危機救援金	1,087件	52,004,176円
2022年アフガニスタン地震救援金	35件	301,164円
2022年パキスタン洪水救援金	36件	178,828円
2023年トルコ・シリア地震救援金	312件	22,863,124円
計	1,574件	75,753,560円



避難民を慰めるボランティア
(ウクライナ人道危機)



被災者への炊き出し
(トルコ・シリア地震)

医療を必要とする人の健康を守るために

高度化、専門化の進む医療環境に対応するため、日本赤十字社では医療事業推進本部制をとり、健全かつ安定的な病院運営の確保に向けてグループ運営を進めています。

県内においては各地域の中核医療機関として、高度医療、救急医療、周産期医療、保健衛生活動の中心的役割を担っているほか、新型コロナウイルス感染症患者の治療・入院受け入れや病床確保に努めるなど、赤十字の理念に基づく幅広い医療事業を展開しました。

さいたま赤十字病院 638床（一般632床・精神6床）

高度救命救急センターや隣接する県立小児医療センターと連携して総合周産期母子医療センターを運営するなど、県南地域の中核病院として高度で専門的な医療を提供しています。

常備救護班登録 4班

内訳) 医師8人、看護師長4人、看護師8人、
薬剤師4人、主事12人



小川赤十字病院 302床（一般252床・精神50床※休止中）

県西地域（比企）の中核病院として地域の救急医療に取り組むほか、訪問看護ステーション、精神科デイケアセンターを併設し、地域に根差した医療を担っています。

常備救護班登録 3班

内訳) 医師3人、看護師長3人、看護師6人、
薬剤師3人、主事6人



深谷赤十字病院 474床（一般468床・感染症6床）

県北地域の基幹病院として、ヘリポートを有した第三次救急医療を担う救命救急センターなど高度な救命機能を保持しつつ、骨髄移植や臓器提供施設等の機能を併せ持つ災害拠点病院です。

常備救護班登録 3班

内訳) 医師3人、看護師長3人、看護師6人、
薬剤師3人、主事6人



〈入院外来別延べ患者数〉

	さいたま赤十字病院	小川赤十字病院	深谷赤十字病院
入院患者数	200,879人	67,802人	120,269人
外来患者数	352,737人	131,245人	187,171人

〈新型コロナウイルス感染症受入患者数〉（別掲）

さいたま赤十字病院	小川赤十字病院	深谷赤十字病院
338人	215人	383人

社会福祉事業

令和4年度 歳出額 38,172千円

支援を必要とする人の尊厳を守るために

2つの特別養護老人ホームでは、地域住民やボランティア等の協力を得て施設の運営をしており、災害時の要援護者支援施設として福祉避難所に指定されています。

また、協力病院と連携した健康管理や理学療法士による身体機能維持に努めながら、利用者一人ひとりの個性を尊重し、自立した生活を営めるよう、質の高いサービス提供を心がけました。

特別養護老人ホーム 小川ひなた荘

隣接する小川赤十字病院との連携により、医療依存度の高い利用者に対しても迅速な対応ができる体制を整え、地域高齢者の福祉向上に努めています。

運営・処遇方針

- ◇利用者の人権の尊重と心の通い合う介護の実践
- ◇利用者、家族への十分な説明と同意によるサービスの提供
- ◇地域に根差した透明性のある施設運営

利用実績

- ◇介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
・・・一日平均 53.6 人（定員 55 人）



庭に咲いた花で生け花をする様子
(小川ひなた荘)

特別養護老人ホーム 彩華園

平成 17 年に埼玉県から移管を受けて以来、日本赤十字社が運営を行っており、「利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動する」という精神のもと、「認知症ケア」、「看取りケア」、「口腔ケア」の3つのケアを重点項目として取り組んでいます。

運営・処遇方針

- ◇認知症になってもその方らしさが失われることなく生活できるように支援する（「認知症ケア」）
- ◇安らかな最期を迎えられるようにご本人やご家族と一緒に「看取りケア」に取り組む
- ◇できる限り口から美味しく食事がとれるように多職種で「口腔ケア」に取り組む

利用実績

- ◇介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
・・・一日平均 82.6 人（定員 88 人）
- ◇短期入所生活介護事業（ショートステイ）
・・・延べ 3,551 人
- ◇通所介護事業（デイサービス）・・・延べ 2,374 人
- ◇居宅介護支援事業所・・・延べ 307 人



窓越し面会（彩華園）

血液事業

令和4年度 歳出額 11,362千円

血液を必要とする患者のもとに 24時間365日必ず届けるために

県内に7か所の献血ルームを開設し、街頭で献血協力の呼びかけを行っているほか、献血バスを各地へ運行し安全性の高い輸血用血液を安定的に確保し、医療機関に供給しています。

急速な少子高齢化により全国的な献血協力者の減少に加え、令和4年度は新型コロナウイルス感染症による影響もある中、行政や地域、関係機関と連携して協力を呼び掛けたほか、各種キャンペーンを積極的に展開し、血液の確保に取り組みました。



埼玉県赤十字血液センター

① 献血状況

〈令和4年度献血者数〉

献血種別	献血者数
200mL	11,053人
400mL	162,674人
成分献血	65,630人
計	239,357人

〈献血者数・献血者の推移〉



※献血率(%) = 県内献血者数 / 総務省発表の県人口 × 100

② 実施事業

イベント・キャンペーン ※は埼玉県独自のイベント・キャンペーン

- 新社会人献血キャンペーン [4月～6月]
- 彩の国さいたま「愛の血液助け合い運動」 [7月～8月] *
- 彩の国さいたま「第53回愛の血液助け合いの集い」
[7月28日：埼玉会館（さいたま市）]
- 初回献血+ラブラッド登録キャンペーン [9月～11月]
- はたちの献血キャンペーン [1月～2月]
- シニア60～64 初回献血キャンペーン [1月～3月]
- 卒業献血キャンペーン [2月～4月]
- 大宮アルディージャ献血応援キャンペーン
[5月、6月、7月、8月、9月、12月] *
- クリスマス献血キャンペーン2022 [12月] *
(協力：埼玉西武ライオンズ)
- バレンタイン献血キャンペーン [2月11日～12日]
(協力：埼玉パナソニックワイルドナイツ)



広報活動

令和4年度 歳出額 89,317千円

もっと多くの人に赤十字を知っていただくために

県民の皆様の赤十字への理解と協力をいただくため、様々な機会や方法で広報活動を行いました。感染防止対策を徹底したうえでイベントの開催や参加に取り組んだほか、新たに Twitter と Instagram の運用を始めるなど赤十字活動の「今」が伝わる情報発信の充実に努めました。

① イベントの開催・参加等、その他

- ◇ 令和4年埼玉県赤十字大会の開催 [11月18日：さいたま市文化センター（さいたま市）]
埼玉県支部創立135周年と青少年赤十字創設100周年を記念し、赤十字大会を開催しました。赤十字活動に多大な貢献をされた方々に対して感謝の意を表すとともに、落語家の林家たい平氏による記念講演や青少年赤十字加盟校の春日部市立豊春中学校の合唱団による演奏が行われました。



- ◇ 赤十字運動月間における街頭PR活動 [5月9日 JR浦和駅東口]
事業紹介パネル等を用いて、赤十字運動月間をPRしました。

- ◇ レイクタウン防災フェス2022への参加 [6月4日～5日：イオンレイクタウン（越谷市）]
越谷市、イオンレイクタウンなどが主催するレイクタウン防災フェス2022に参加し、はがれにくい絆創膏の貼り方体験や救護車両・救護物資の展示などを行いました。

- ◇ キッズわくわくワークへの出展 [9月17日：上尾 10月16日：モラージュ菖蒲]

子育て世代への赤十字活動の理解促進を図るため、ハウジングステージでのお仕事体験イベントに初めて参加しました。子供用救護服・ナース服を着て救急法を体験するブースや救護車両との写真が撮れるブースを設け、両日あわせて400名を超える親子にお越しいただきました。



- ◇ 「遺言・相続セミナー&相談会」を開催 [9月17日：深谷市上柴公民館]

埼玉司法書士会、深谷市と共催で、相続や遺言に関するセミナーを開催しました。トークセッションの様子は地域エフエムラジオ局により公開収録され4日間にわたり放送されるとともに、新聞にも大きく取り上げられました。

- ◇ 赤十字活動PRイベント plus 献血の開催 [11月13日：イオンモール羽生（羽生市）]
血液センターが実施する献血とあわせて、イベントスペースに救急法・幼児安全法体験ブースを設けたほか、災害救護用資機材やダンボールベッド、防災グッズの見学ブースで赤十字活動をPRしました。

②テレビ・新聞・ラジオ等による広報

年間を通じて積極的なプレスリリースを行いました。その結果、テレビ、ラジオ、新聞等で計 15 件取り上げられ、広く赤十字の活動を伝えることができました。

また、地域エフエムラジオ放送の番組に職員が出演し、赤十字活動の紹介や幼児のけがの手当てなどについての説明を行いました。



テレビ情報番組に出演する職員

③ホームページ・SNSによる広報

災害対応や実施事業の報告のほか、生活に役立つ情報など身近なところにある赤十字活動をタイムリーに発信しました。

特に、若年層の理解促進と支援の裾野を広げるため、従来の Facebook・YouTube に加え、Twitter・Instagram の運用を開始し、情報の発信力、拡散力を強化しました。

また、埼玉県警察と連携して「川の安全動画」を作成し、YouTube で広く配信するとともに、コカ・コーラ・ポトラースジャパン株式会社の協力により、9月6日から約1か月間、大宮駅西口アルシェビルの大型デジタルサイネージでウクライナ人道危機の動画を放映しました。



大型デジタルサイネージを活用した広報



川の安全動画

事業報告

令和4年度 歳出額 10,000千円

看護師の養成

救援・救護活動ができる

赤十字看護師を育成するために

日本赤十字看護大学さいたま看護学部（設置：学校法人日本赤十字学園）では、日本赤十字社の使命である救援・救護活動を実効的に展開できる看護師を養成しています。今後の医療環境を見通し、未来に向けてリーダーとしての役割が果たせる人材育成を目指しています。

授業（災害看護活動論）に支部から2日間・延べ8人の講師を派遣するとともに、学部の運営に対して資金援助を行いました。

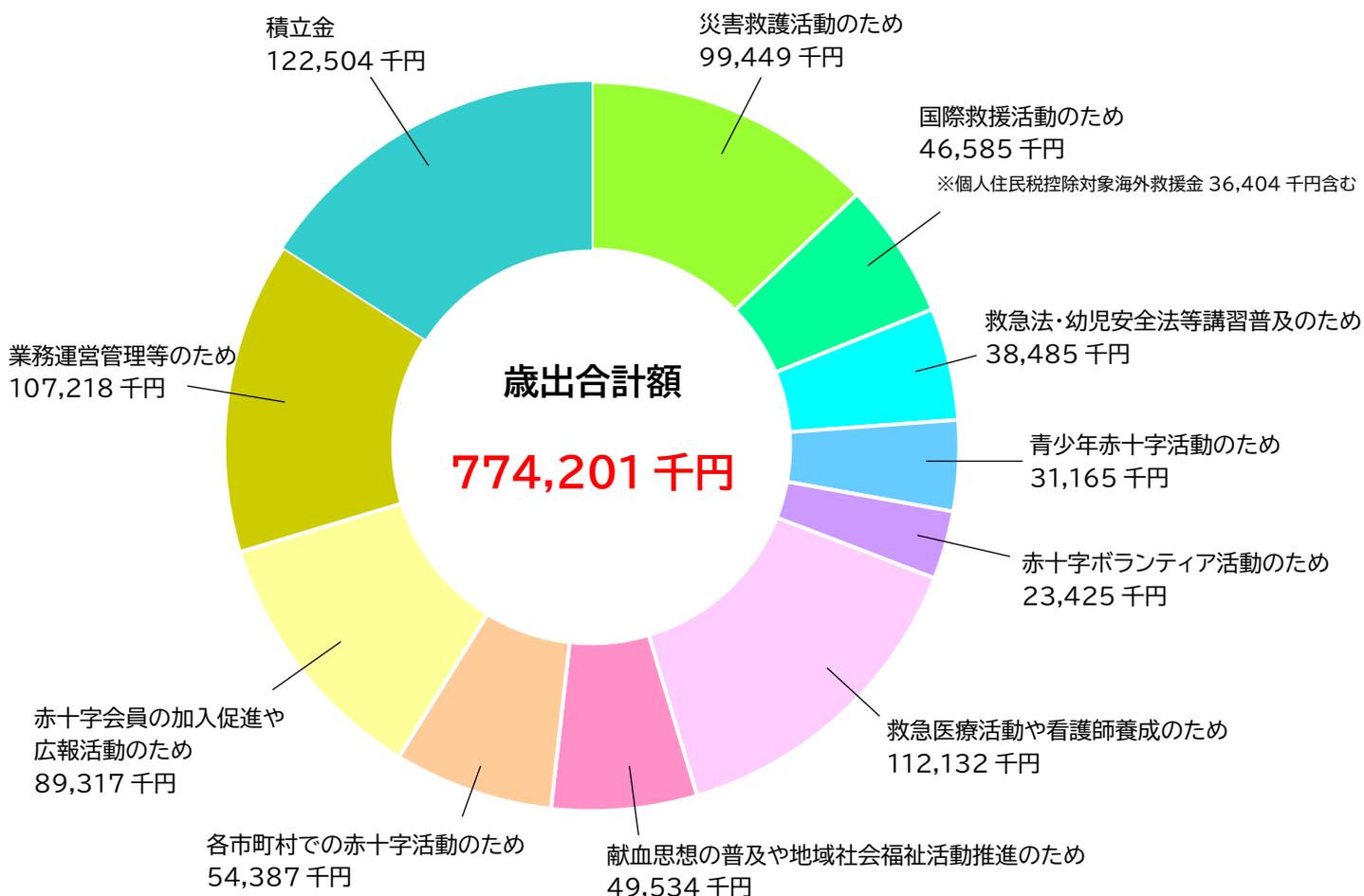
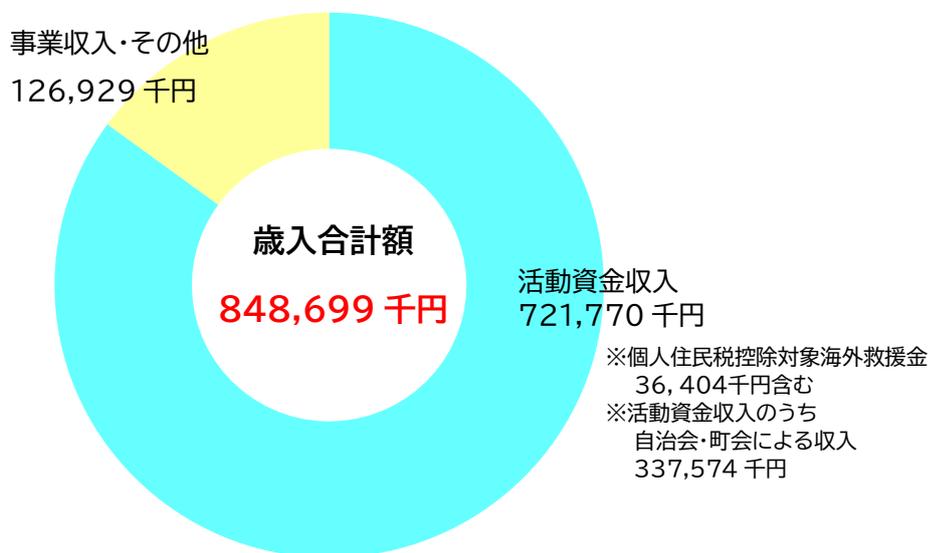


授業（災害看護活動論）の様子

令和4年度 歳入歳出決算

災害救護をはじめ「人間のいのちと健康、尊厳を守り、苦しんでいる人を救う」ための活動は、赤十字の理念に賛同し、共感し、支援して下さる方々（会員）によって支えられています。

① 歳入歳出決算報告



◇差引額 74,498千円は次年度に繰り越しました。

◇赤十字病院および社会福祉施設は施設ごと、血液センターは血液事業全体での特別会計のため、この収支報告には含まれていません。

②活動資金実績

目標額		実績額	
558,000,000 円		685,366,361 円※1 〔達成率 122.8%〕	
内訳)		内訳)	
◇地区・分区扱い (市区町村)	390,000,000 円	◇地区・分区扱い※2 (市区町村)	373,250,260 円 〔達成率 95.7%〕
◇個人・団体	126,000,000 円	◇個人・団体	284,375,095 円 〔達成率 225.7%〕
◇法人	42,000,000 円	◇法人	27,741,066 円 〔達成率 66.1%〕

※1 個人住民税控除対象海外救援金を除く

※2 地域（市区町村）の赤十字窓口を通じてご協力いただいた寄付

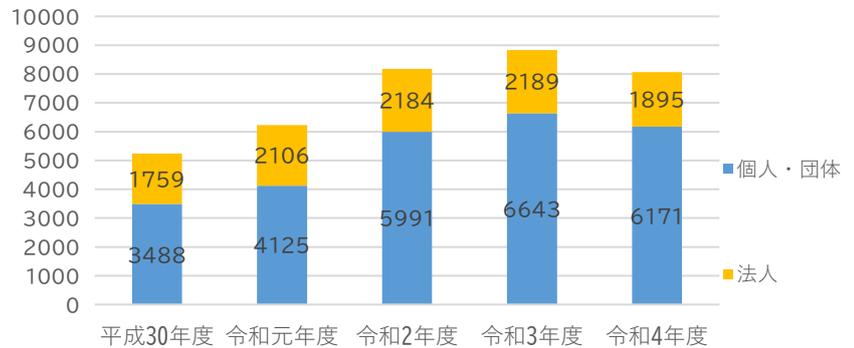
③指定事業活動資金・特定寄付金募集実績（再掲）

募集区分	目標額	実績件数・金額	
個人指定事業 (募集対象：個人)	32,000,000 円 (総務大臣承認に基づく額)	59 件	32,000,000 円 〔達成率 100%〕
法人指定事業 (募集対象：法人)	34,000,000 円 (財務大臣承認に基づく額)	114 件	27,073,031 円 〔達成率 79.6%〕

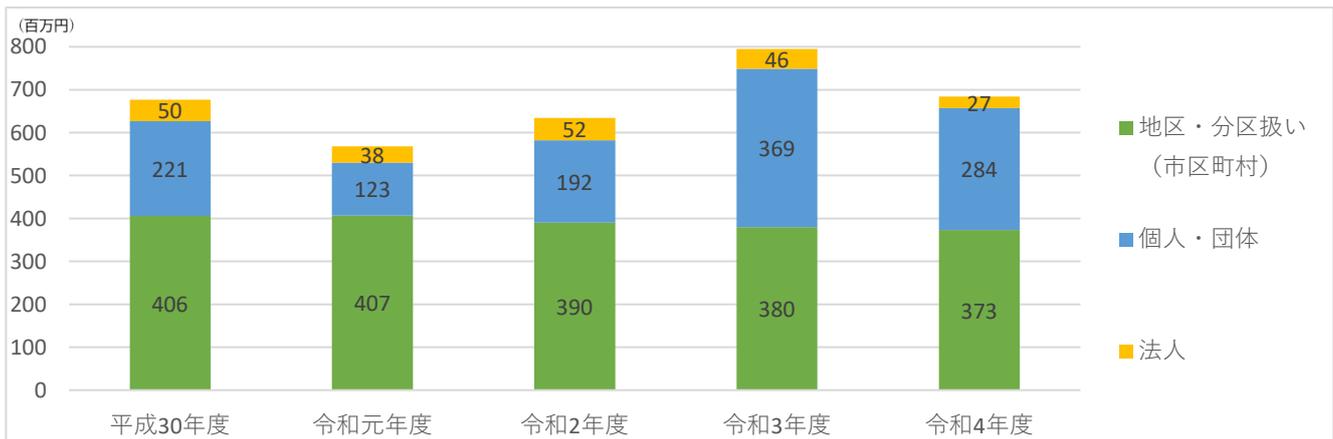
④管内施設への指定寄付金実績（再掲）

⑤会員数の推移（過去5年間）

施設名	実績件数・金額
さいたま赤十字病院	22 件 57,895,000 円
小川赤十字病院	3 件 1,490,000 円
深谷赤十字病院	3 件 220,000 円
彩華園	2 件 200,000 円
埼玉県赤十字血液センター	2 件 110,000 円



⑥活動資金実績の推移



埼玉県支部について

(令和5年3月31日時点)

日本赤十字社（本社：東京都港区）は、人道の理念に基づき、世界各国の赤十字社・赤新月社とともに紛争や災害、病気などで苦しんでいる人々に対する救援活動を行っています。

また、国内でも、地震・水害などによる被災者の救護活動や医療・血液・福祉など、幅広い分野で活動しています。これらの活動をより地域のニーズに合わせて行うために、各都道府県に支部を設置しています。

埼玉県支部の活動はすべて、財政面でご支援いただく赤十字会員や、活動の直接の担い手である赤十字奉仕団をはじめとするボランティア等多くの方々によって支えられており、1887年（明治20年）12月設立以来、活動を続けています。

日本赤十字社埼玉県支部及び管内赤十字施設の現勢

支 部 長	大野 元裕				血液事業	◇血液センター ・埼玉県赤十字血液センター
会 員	個人・団体 6,171人 法人 1,895法人					◇事業所・出張所 2 ・日高事業所 ・熊谷出張所
青少年赤十字	・加盟校(園)626校 ・メンバー213,289人 ・指導者 14,912人					◇献血ルーム 7 ・所沢プロバ通り献血ルーム ・川越クレアモール献血ルーム ・鴻巣献血ルーム ・大宮献血ルーム ウエスト ・越谷レイクタウン献血ルーム ・熊谷駅献血ルーム ・川口駅献血ルーム
	学校区分	加盟校数	メンバー数	指導者数		◇献血者数 ・200mL 11,053人 ・400mL 162,674人 ・成分献血 65,630人 計 239,357人
	幼稚園・保育園	127園	16,205人	2,690人		社会福祉施設
	小学校	271校	119,053人	6,823人		
	中学校	159校	63,176人	4,220人		
	高等学校	66校	14,408人	895人		
特別支援学校	3校	447人	284人			
赤十字ボランティア	・奉仕団数 61団 ・登録者数 6,515人					◇特別養護老人ホーム 2 (総定員 165人) ・小川ひなた荘 特養 55人 ・彩華園 特養 88人 ショートステイ 10人 デイサービス 12人 居宅看護支援
	種別	登録団数	登録者数		職 員 数	
	地域奉仕団	49団	5,361人			
	青年奉仕団	3団	140人			
	特殊奉仕団	9団	956人			
救護ボランティア	—	58人				
講習普及事業	《講習実績》				埼玉県支部 25人	
		講習回数	受講者数	登録指導員数	さいたま赤十字病院 1,471人	
	救急法講習	218回	5,077人	223人	小川赤十字病院 360人	
	水上安全法講習	25回	936人	54人	深谷赤十字病院 858人	
	健康生活支援講習	44回	586人	65人	小川ひなた荘 24人	
国際活動	・姉妹赤十字社ユースメンバーとの交流 ・支部取扱海外救援金額 1,574件 75,753,560円				彩華園 39人	
	・常備救護班 10班 ・無線局 70局 ・救護車両 29台(福祉施設分含む) ・支部取扱国内義援金 706件 7,703,898円 ・配分救援物資 866個(布団・毛布・緊急セット・感染予防セット)				血液センター 212人	
災害救護	・常備救護班 10班 ・無線局 70局 ・救護車両 29台(福祉施設分含む) ・支部取扱国内義援金 706件 7,703,898円 ・配分救援物資 866個(布団・毛布・緊急セット・感染予防セット)					
	医療事業	病院 3施設				
病院名		病床数	入院延べ患者数	外来延べ患者数		
さいたま赤十字病院		638床	200,879人	352,737人		
小川赤十字病院		302床	67,802人	131,245人		
深谷赤十字病院	474床	120,269人	187,171人			

支部役職員

役職名	氏名	主な公職
支部長	大野 元裕	埼玉県知事
副支部長	富岡 勝則	埼玉県市長会会長・朝霞市長
	井上 健次	埼玉県町村会会長・毛呂山町長
	金子 直史	埼玉県福祉部長
監査委員	西島 昭三	元日本赤十字社埼玉県支部副支部長
	小山 彰	公認会計士
参与	横田 淳一	埼玉県福祉部福祉政策課長
	播磨 高志	埼玉県福祉部高齢者福祉課長
	坂 行正	埼玉県保健医療部医療整備課長
	岡地 哲也	埼玉県保健医療部薬務課長

代議員

役職名	氏名	主な公職
代議員	西島 昭三	元日本赤十字社埼玉県支部副支部長
	田中 憲次郎	会社役員
	関根 正昌	会社役員
	利根 忠博	埼玉県経営者協会 名誉会長
		日本赤十字社理事(R3.4.1~)
	小野寺 貴一	会社役員
	黒瀬 節子	赤十字奉仕団 支部指導講師

評議員

氏名	主な公職	氏名	主な公職
岡田 悟	馬宮地区社会福祉協議会会長	並木 傑	新座市長
山崎 秀雄	さいたま市北区日進地区社会福祉協議会会長	小野 克典	桶川市長
松本 敏雄	さいたま市自治会連合会会長	梅田 修一	久喜市長
村田 博	大砂土東地区社会福祉協議会会長	三宮 幸雄	北本市長
富澤 洋	さいたま市中央区自治会連合会会長	香山 庸子	八潮市健康福祉部長
井田 光一	さいたま市桜区土合第二自治会連合会会長	星野 光弘	富士見市長
石井 桂太郎	さいたま市浦和区自治会連合会副会長	木津 雅晟	三郷市長
細淵 紀雄	さいたま市南区武蔵浦和地区自治会連合会会長	山口 京子	蓮田市長
鈴木 甫	さいたま市緑区尾間木地区自治会連合会会長	石川 清	坂戸市長
三次 宣夫	さいたま市岩槻区自治会連合会会長	木村 純夫	幸手市長
佐藤 敦弘	川越市社会福祉協議会事務局長	齊藤 芳久	鶴ヶ島市長
近藤 正広	川越市福祉部長	谷ヶ崎 照雄	日高市長
植原 利和	熊谷市福祉部長	中原 恵人	吉川市長
坂本 裕一	川口市福祉部長	高畑 博	心じみ野市長
牛田 洋子	元日本赤十字社埼玉県有功会川口市支会監事	藤井 栄一郎	白岡市長
岡田 安弘	行田市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	大島 清	伊奈町長
北堀 篤	秩父市長	中野 松夫	宮代町社会福祉協議会会長
前田 広子	所沢市福祉部長	窪田 裕之	杉戸町長
岡田 茂穂	会社役員	坂巻 正士	松伏町いきいき福祉課長
新井 重治	飯能市長	林 伊佐雄	三芳町長
石川 雄一	加須市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	小峰 孝雄	鳩山町長
木村 登志男	本庄市社会福祉協議会理事	飯島 和夫	川島町長
今村 浩之	東松山市健康福祉部長	大澤 夕キ江	長瀨町長
時田 美野吉	春日部市自治会連合会会長	原田 信次	美里町長
鷹野 勝利	狭山市福祉こども部長	矢部 吉春	寄居町社会福祉協議会常務理事兼事務局長
秋山 尚幸	羽生市市民福祉部長	清水 勇人	さいたま市長
木村 勝美	鴻巣市健康福祉部長	村田 俊彦	団体役員
小島 進	深谷市長	二重作 正次	会社役員
石川 孝之	上尾市社会福祉協議会事務局長	齊之平 伸一	団体役員
坂田 幸夫	草加市健康福祉部長	吉川 尚彦	埼玉県生活協同組合連合会会長理事
小田 大作	越谷市福祉部長	齋木 はな	元 赤十字奉仕団埼玉県支部委員会委員長
杉本 昭彦	越谷市社会福祉協議会会長	高橋 裕一	埼玉県青少年赤十字賛助奉仕団委員長
頼高 英雄	蕨市長	田口 誠	会社役員
菅原 文仁	戸田市長	平本 一郎	会社役員
杉島 理一郎	入間市長	小野 修作	団体役員
松尾 哲	朝霞市社会福祉協議会会長	上木 雄二	埼玉県社会福祉協議会副会長
中村 修	志木市福祉部長	吉田 秀実	埼玉県民生委員・児童委員協議会事務局長
柴崎 光子	和光市長		

(定数 75人)

県内赤十字施設一覧

支部

施設名	所在地	電話番号
日本赤十字社埼玉県支部	〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 3-17-1	048-789-7117

赤十字病院

施設名	所在地	電話番号
さいたま赤十字病院	〒330-8553 さいたま市中央区新都心 1-5	048-852-1111
小川赤十字病院	〒355-0397 比企郡小川町小川 1525	0493-72-2333
深谷赤十字病院	〒366-0052 深谷市上柴町西 5-8-1	048-751-1511

社会福祉施設

施設名	所在地	電話番号
特別養護老人ホーム小川ひなた荘	〒355-0321 比企郡小川町小川 1548-1	0493-74-2191
特別養護老人ホーム彩華園	〒360-0004 熊谷市上川上 266	048-524-1391

赤十字血液センター・献血ルーム

施設名	所在地	電話番号
埼玉県赤十字血液センター	〒337-0003 さいたま市見沼区深作 955-1	048-684-1511
日高事業所	〒350-1213 日高市高萩 1370-12	042-985-6111
熊谷出張所	〒360-0806 熊谷市奈良新田 398-1	048-525-1330
所沢プロバ通り献血ルーム	〒359-1123 所沢市日吉町 10-19 Tokorozawa ex 2F	04-2903-9277
川越クリアモール献血ルーム	〒350-1122 川越市脇田町 4-2 ドン・キホーテ川越東口店4F	049-225-8760
鴻巣献血ルーム	〒365-0028 鴻巣市鴻巣 405-4 埼玉県運転免許センター内	048-543-5511
大宮献血ルーム ウエスト	〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町 2-4-1 DOMPARTⅢ 5F・6F	048-658-5757
越谷レイクタウン献血ルーム	〒343-0828 越谷市レイクタウン 3-1-1 イオンレイクタウン mori 1F	048-987-3737
熊谷駅献血ルーム	〒360-0037 熊谷市筑波 2-112 JR 熊谷駅構内	048-525-8802
川口駅献血ルーム	〒332-0017 川口市栄町 3-1-24 川口駅東口ビル 3F	048-223-7661
埼玉製造所 ^{※1}	〒355-0071 東松山市新郷 493-1	0493-24-3111

※1 日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センターの施設

看護師等教育施設

施設名	所在地	電話番号
日本赤十字看護大学 さいたま看護学部 ^{※2}	〒338-0001 さいたま市中央区上落合 8-7-19	048-799-2747

※2 学校法人日本赤十字学園による運営。日本赤十字看護大学の東宮キャンパス

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

令和4年度 事業報告書

〒330-0064
埼玉県さいたま市浦和区岸町3-17-1
TEL 048-789-7117
FAX 048-834-1520



公式ホームページ

<https://www.jrc.or.jp/chapter/saitama>



公式 facebook

<https://www.facebook.com/redcrosssaitama/>



公式 Twitter

<https://twitter.com/redcrosssaitama>



公式 Instagram

https://www.instagram.com/redcross_saitama/



公式 YouTube

https://youtube.com/@redcross_saitama